

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292500022		
法人名	有限会社 楓プロジェクト		
事業所名	グループホームかえでの森		
所在地	上北郡六戸町大字犬落瀬字柴山55-129		
自己評価作成日	令和2年10月30日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和2年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すこしでも一人ひとりの要望に応じてあげられるように支援し、寄り添って家庭的な居場所にしたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅型有料老人ホームを併設しており、食事作りや災害時の連携体制を確保している。食事は、併設施設の栄養士が献立を作成しており、地元産や旬の食材を使い、バランスに配慮した食事を提供している。入居前からのかかりつけ医との馴染みの関係を大切にし、施設の看護師が通院に付き添い、利用者の日頃の状況を的確に医師に伝え、また、医師の説明を家族や職員に正確に伝えるなど、医療機関とのスムーズな連携を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内(事務所、スタッフルーム)に経営理念を掲示し、全員がそれを目にして日々の業務に取り組むことができるようにしている。	家庭的な雰囲気の中で、可能な限り自立した生活を送るという地域密着型サービスの役割を反映させた理念を作成し、事務室とスタッフルームに掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルス流行のため、六戸のお祭りは中止となり、交流ができていない。	近隣に住宅が少ない立地環境ではあるが、日頃からご近所への挨拶を心掛けている。例年、保育園とクリスマス交流会を実施しているが、コロナ禍のためホーム内で代替行事を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内の見学ができるようにしている。また、認知症ケアに対する相談を受けた際は、実践経験をもとに助言している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、近況報告や認知症についての情報提供し、参加者よりアドバイスを受けている。	家族や地域関係者、地域包括支援センターの職員に会議の案内をして、2ヶ月に1回会議を開催し、取り組み状況の報告等を行っている。コロナ禍においては、書面開催となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	課題内容や支援状況について、報告や相談し、課題解決に向けて連携を図っている。	地域包括支援センターの職員が運営会議のメンバーとなり、利用者の生活の質の向上に向けた意見を聞く機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回、身体拘束適正委員会を開催している。身体拘束の有無についての検討のほか、勉強会を開催して全職員が身体拘束の内容や弊害について理解できるように取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は、マニュアルに沿って行っている。	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、年2回の職員研修や3ヶ月に1回の自己チェックを通して、全職員に理解を促している。玄関や居室は施錠せず、利用者の外出傾向を察知した場合は職員が声掛けをして敷地内の散策に付き添っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加やホーム内で勉強を行っている。施設虐待ニュース等の情報をもとに、虐待の有無に意識したケアを行うように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、全職員が理解できるように家族状況の変化に応じて必要な情報を提供し、行政と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際に、運営理念や料金等の説明を行い、利用者や家族の意向や不安を確認し、理解や納得を得ている。退去が決まったときは、退去後の関係機関に必要な情報提供を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、毎月日常生活状況を書面で報告している。また、面会や電話を受けた際も報告し、今後の支援方法について家族と一緒に考える等、家族も意見を出しやすい環境作りをしている。	玄関に意見箱を設置しているほか、内外の苦情受付窓口を周知している。面会時やケアプラン説明の際に家族が意見を言いやすい雰囲気作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ユニット会議やミーティングを設け、スタッフの意見や気づいたことを話し合い、共有している。	月1回のユニット会議や職員ミーティングには、施設長(管理者兼)が出席し、職員の意見を把握し、改善につなげる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は家庭環境、健康管理を把握し、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1、2度は、全職員がその人にあった研修受講に努めている。受講後は報告書を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を通し、相談したり参考にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問した際に本人と面接し、コミュニケーションを図りながら心身の状況やニーズ、困っていることを把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談を受けたときは、現在困っていること、現在の状況や生活歴、家族の思い等を面接を通して聞いている。、施設見学をして頂き、施設内の生活環境を確認して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、関係機関から情報収集し、必要とされている支援や生活環境の変化により予測される状況に対し、家族や職員で話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や能力に応じて、日常の家事(日常の軽作業)を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の状況を家族に報告し、現在の家族の思いを確認している。また、必要とされる支援が行えない状況になったときは、家族と一緒に専門医に相談し、対応方法について一緒に検討し、状況に応じて家族の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた病院を継続することにより、馴染みの人と交流する機会を設けている。また、希望があれば長年生活してきた自宅や畑等を見るために外出している。	家族等からの聞き取りにより、利用者の馴染みの場所等を把握し、希望があれば外出を支援している。また、入居前からのかかりつけ医の受診に付き添う等、馴染みの関係作りを継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が支えあえるような環境作りをしている。また、利用者の人間関係を把握し、ホール内の席替え等を行い、トラブルにならないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続して必要なサービスが利用できるように退去後の関係機関に情報提供している。また、退去後も相談に応じることを説明し、家族より相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の気持ちや意向を把握している。困難な場合は、課題について家族や関係機関に情報提供を受けている。	職員は利用者との日々の関わりから思いや意向を把握するよう努め、意向が十分に把握できない場合には、利用者の視点で検討している。把握した情報は、ユニット会議において職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関から生活歴や入居に至るまでの情報を収集し、これまでの生活状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者にあった生活ができるように、ADL状況や生活リズムを観察し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回はスタッフと話し合い、ADLの変化等も含めて介護計画書内容の変更の有無や対応方法について検討している。	ユニット会議において、利用者の経過記録を基に、職員間で話し合って介護計画を作成し、家族に説明している。見直しを行う際は、目標の達成度を評価し、心身の状況を再アセスメントしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化が見られたときや、薬を変更したとき等は、状況を個別に記録して残している。また、朝夕の申し送りや申し送りノートを活用し、スタッフ全員が共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向を理解したうえで家族と関わり(病院受診や外出、面会時間の調整等)を持つ機会を作り、健康面では訪問看護師、医師と連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察等の地域の資源を活用できる働きかけを行っている。また、外部のケアマネジャーと連携を図り、必要に応じてホーム以外のサービスに繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診状況を把握している。健康状態に応じて必要な医療機関を受診している。医師には、日常の様子や薬の効果等報告し、連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医への受診に看護師が付き添い、利用者の日頃の状況を的確に医師に伝えている。また、医師の説明を家族や職員に正確に伝える等、医療機関とのスムーズな連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来所している。看護師に日常の様子や健康状況、受診状況等を情報提供している。日ごろから相談できる環境にすることで連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や看護師と相談、連絡できる体制を作っている。入退院時は情報交換を行い、退院後の支援体制についても家族を含め話し合えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応をしていないことを契約時に説明している。重度化した場合に備えて、早期に今後の方向性やホームとしてできることを家族に相談している。急変時やリスクについて、介護職員や訪問者に情報共有して対応している。	重度化や終末期の対応をしていないことを「重度化対応に関する指針」に定め、支援できる範囲を家族に説明して納得いただいている。急変時には、24時間対応可能な医療機関との協力体制を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時、応急手当や救急救命ができるように介護職員は普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練(火災)を行っており、利用者も参加している。また、消火器や火災通報装置の点検を行っている。	夜間を想定した避難訓練を年2回、消防署の協力を得た避難訓練を隔年で実施している。災害時に備えて、2、3日分の飲料水や食料、ストーブ等を確保し、併設施設との協力体制を整備している。	年2回の避難訓練が夜間想定のため、2回のうち1回は、日中のさまざまなシチュエーションを想定した訓練を実施することが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の認知症状によって、理解できる言葉で呼びかけている。また、対応については、日々の確認やミーティングで話し合っている。	職員は利用者への言葉遣いに配慮し、トイレや入浴支援は1対1で対応している。利用者への対応の仕方に問題がないか、年2回自己チェックに取り組むとともに、内部研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が言葉で意思表示できない場合は、日々の表情や言動等を観察して、発言できるようにコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムやその日の心身の状況に合わせて、臨機応変に対応できるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や髭剃りは出張訪問を利用して、一人ひとりの希望スタイルに合わせて対応している。外出時や入浴等の着替えは、利用者の好みや似合いそうな衣類を選んでおり、化粧をする等してその人らしい身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等を行っている。また、嗜好や体調に応じて代替食も用意し、食事を楽しめるように支援している。	併設施設の栄養士が作成した献立により、バランスの良い食事が提供され、苦手な物等には代替食を用意している。利用者は、状況に応じておしぼりの準備や食器拭き等を手伝っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の活動量と食事摂取量の評価、健康状態や気温の変動に応じて、食事摂取量や水分摂取量を調整して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に毎食後の口腔ケアを促して、能力に応じた支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のリズムを記録して把握することで、状況に応じて自尊心に配慮しながらトイレ誘導等の排泄の支援をしている。	一人ひとりの排泄の記録をとって間隔を把握し、事前誘導して排泄の自立に向けた支援を行っている。誘導の際は、小声で声掛けする等の羞恥心に配慮した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳や乳製品の摂取、運動への参加を促している。排便の頻度や形態、量を確認している。排便困難な利用者は、医師に相談して一人ひとりに合わせた排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴を嫌がる利用者には、表情や行動等からタイミングを見て時間や入浴日を変更して、入浴を楽しめるようにしている。入浴が困難なときは、足浴や着替えの支援をしている。	週2回、午後に入浴時間を設けており、入浴日は事前に利用者に伝えている。入浴は、1対1で支援し、羞恥心やプライバシーに配慮している。入浴を拒否する場合は、入浴日や時間帯を変更して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動状況や休憩時間を観察して、夜間の睡眠時間を確保できるように対応している。困難な利用者には、医師に相談して生活リズムが整うように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の内容を全職員が把握できるようにしている。また、処方薬が変更したときは申し送りノートに記録して、口頭でも申し送りを行っている。服用後の変化を記録に残して、医師や家族に報告できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年の生活習慣から洗濯干しや食後の片付け、掃除等の日常家事を役割として行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物やドライブ、外食等の外出行事の参加を支援していたが、コロナ禍で感染予防対策として外出支援ができない状況にある。	コロナ禍で外出行事を控えているが、天気の良い日は敷地内を散歩したり、ドライブで車窓から風景を楽しめるようにする等の工夫をしている。また、外食ができない代わりに、テイクアウトで外食気分を味わえるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物行事では、利用者の欲しい物を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があったときは、本人が電話で話をできるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側にある共有スペースは、天井が高く開放感がある。窓からは外の景色が見ることができて、季節の移り変わりを感じることができる。また、ホール内は季節に合わせた装飾を行っている。	ホールには、食卓セットや小上がりを設置しており、家庭的な雰囲気となっている。また、天井が高く開放的で、南向きの窓からは、季節の移り変わりを感じることができる。ホールと各居室に温湿度計を設置しており、必要に応じて加湿器を使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの小上がりに横になったり、腰を掛けて新聞を読んだり、気の合う仲間と会話を楽しむ等共有空間を活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ等を置いたり家族の写真や人形、花を飾ったりして、居心地よく過ごせるように居室作りをしている。	入居時に、愛用品の持参を家族に働きかけている。愛用品のほか、仏壇を置いたり、家族写真等を飾って心地よい空間作りを支援している。持ち込みが少ない場合は、行事で撮影した写真や制作した作品を飾っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわからない利用者には、目印となるものを飾り、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		